



丸小だより

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く～

平成 29 年 10 月 31 日 (火) No. 7
横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

社会参画が求められる時代へ

校長 新井 篤志

今までに経験したことのない秋雨前線と台風による長雨で10日間にわたり順延となっていた運動会が10月24日(火)に実施することができました。この間も雨で子どもたちは外で活動することができない状況でしたが、運動会当日の子どもたちの様子を見ると、今までの取り組んできた成果を十分に発揮しており、運動会に向けての意気込みの強さをあらためて感じました。子どもたちには感謝の気持ちでいっぱいです。また、平日にもかかわらずたくさんの保護者の皆様、地域の方々に来校いただき、子どもたちに温かな声援をおくっていただき御礼申し上げます。

さて、運動会が順延している中で、選挙権が18歳以上になってからはじめての総選挙並びに国民審査がありました。高校3年生は年齢によっては選挙権があることになり、今の小学校6年生も6年後には選挙権をもつこととなります。選挙権は社会参画をする1つの方法です。社会参画していくためには世の中の仕組みの理解が必要です。その理解のもと、自分の考えをもち表現していく力をつけていかねばなりません。

社会の仕組みを子どもたちが理解していくためには、自分の身近な出来事を窓口にして社会科や総合的な学習の時間、学校行事などで学習していきます。

例えば、新しくなる学習指導要領では4年生の社会科で風水害に備えた取組を学習する予定になっています。今年も長雨や台風による風水害による影響が日本全国で起きています。どのような被害が起きているのか、そのためにどのような対策を国や地方自治体が行っているのかを学んでいきます。そして、最も大切なのは、自然災害は必ず起きるものなので、国民一人ひとりができることを考えていく必要があるということです。これは大規模地震への備えと同じです。社会の仕組みを知った上で、自分がいざというときにどのような行動すべきなのか、そしてまわりの人たちとどのように協力をしていくのかを判断できるように素地を養っていくことをねらいにしています。これは社会参画が求められる具体的な例と思います。

しかし、小学生が具体的な行動を起こすのは現実には難しいです。でも、いざというときにどういう行動をとるのかを知ることや、地域の人と知り合いになること、ニュースなどを見た時にどんなことが起きているのかを想像することなどはできるでしょう。災害に限らず、世の中の出来事に関心をもつことがだれもができる社会参画の第一歩だと考えます。

